

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 340 回 研究会

日 時 令和元年 12 月 18 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分

場 所 奈良中央信用金庫 3 階 ホール

講 師 信金中央金庫 地域・中小企業研究所
上席主任研究員 角田 匠(つのだ たくみ) 氏

テーマ 「内外経済と金融市場の展望」

開会に先立ちまして、事務局山田より令和元年度補正予算による経済産業省関連の補助金情報についてご案内をさせて頂きました。来年度も政府は「ものづくり補助金」を中心に「IT導入補助金」「持続化補助金」の3本柱で中小企業の生産性革命を推進する方針で、総額 3,600 億円の予算が確保される見通しです。また、省エネルギー補助金、事業承継補助金も手当てされており、会員の皆様には自社の事業展開にご活用ください。

最初に、上田会長より開講の挨拶があり、年末の恒例となりました経済セミナーを開始しました。例年どおり信金中央金庫の角田先生を招いて、今回は「内外経済情勢と金融市場の展望」と題して、いよいよ来年に開催されます東京オリンピック後の景気動向、世界経済の展望などについて、お話を頂きました。角田先生は昨年、日本経済新聞社のシンクタンクである「日本経済研究センター」より、経済予測について優秀な成績を納められたキャスターに贈られる「2017 年度 E S P 優秀フォーキャスター」に選ばれています。

最初に国内経済情勢について、お話を頂きました。実質 GDP は 2019 年 7~9 月まで 4 期連続プラス成長で景気の底堅さを示唆しています。底堅い景気のけん引役は個人消費で増税前の駆け込み需要が寄与しています。しかし、企業の景況感は製造業を中心に悪化しており、主因は電子部品・デバイスといったハイテク関連の落ち込みによります。今後、消費税増税の影響が懸念されるようですが、軽減税率の導入、教育無償化といった増税対策により家計負担は過去の消費増税に比べて小幅に止まっています。また住宅購入支援、自動車購入支援、キャッシュレス決済に対するポイント還元、プレミアム商品券、国土強靱化のためのインフラ投資といった数多くの増税対策により景気を下支えしていくものと思われます。そして気になる東京オリンピック後の景気展望ですが、オリンピック開催に向けての施設整備等の公共投資の代替として、災害復旧事業が下支えとなりますが、今後は東京・東北を中心に減速していく予想で、日本経済には下押し圧力が掛かる展開となり

ます。しかし、世界経済の持ち直しによる輸出の増加が製造業には好材料となり、非常に予測の難しい展開であるとのことでした。

続いて世界経済情勢にお話が進みました。これまで減退が続いていた中国経済に好転の兆しが見えてきたことから、世界景気は持ち直しに向うものと予想されます。アメリカ、中国、ユーロ圏と主要国地域の製造業景況指数にも底入れの兆しが見られます。特にアメリカ経済については減速しつつも底堅く推移しており、来年は大統領選挙を控え、トランプ大統領は支持率を上げるために、市場にインパクトを与える政策を打ち出し、株価の上昇トレンドを維持するであろうとのことでした。

最後に日経平均株価の予想があり、趨勢的な動きを示す200日移動平均線が今年10月に上昇に転じています。今後、短期的にはスピード調整局面も想定されますが、中期では上昇トレンドになるとの見解でした。そして、毎年恒例の干支のお話しでは、「子は繁盛」という格言があり、子年の平均騰落率は+23.8%です。しかし十干十二支では庚子（かのえね）で庚（かのえ）の年は1勝4敗であるとのことでした。こちらも予想が付き難いところでした。講演のあとも、参加者より世界の経済動向に対する多くの質問があり、盛況を持ちまして、2019年の経営研究会を締めくくりました。

以上



開会ご挨拶 上田会長



ご講演 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 角田上席主任研究員